



東京情報大学入学式における 学長式辞

東京情報大学

学 長 鈴 木 昌 治

只今東京情報大学に入学を許可された大学院総合情報学研究科博士後期課程1名、博士前期課程5名並びに総合情報学部総合情報学科489名、3年次編入学生2名、総計497名の皆さんご入学おめでとうございます。ご家族の皆様におかれましては、この佳き日を迎えられましたことを、あらためて御慶び申し上げます。

また、入学式を挙げるにあたり、千葉市長の代理として若葉区長鎗田陸様、香取市長宇井成一様、本学の設置者である学校法人東京農業大学大澤貫寿理事長をはじめご来賓の皆様には大変お忙しい中、ご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭様でこの様に盛大な式典が挙行できますことに、感謝申し上げます。

さて、本日入学を許可された皆さんは、新たな学び舎としてこの東京情報大学を選ばれました。本学の教職員を代表して心より歓迎いたします。

ここで、入学に当たり東京情報大学に関する歴史と本学の教育理念などを知っておいて頂きたいと思えます。本学の経営母体は、学校法人東京農業大学です。その中核となる東京農業大学は、子爵榎本武揚を創始者として1891年に創設され、我が国有数の農学系総合大学として現在に至り、本年で125年になります。本学は1988年に「情報」を大学名に冠した日本で初めての私立大学として学校法人東京農業大学によって設立され、本年で創立29年目を迎えます。

建学の精神「未来を切り拓く」、教育の理念は兄弟校東京農業大学の「実学主義」を継承した「現代実学主義」、学生指導の理念は「自立と協調」を掲げ、情報化社会の礎となるパイオニア精神にあふれた優れた人材を育成しています。実学というと単に「便利で役に立つ学問」を意味すると考えがちですが、実際の現場で起きている課題を解決するため、基礎的な学問に裏付けされた科学的根拠に基づいて新たな理論を構築して、応用することをめざす学問です。

21世紀に入り十数年を経過した今日においても、情報学と情報技術の進化は止まることなく続き、医療、農業、ビジネス、環境、教育などあらゆる分野へ応用されるとともに、将来に亘る可能性はますます拡がりを見せています。この3月初旬、グーグル社の研究部門であるグーグル・ディープマインド社が開発した囲碁AI「アルファ碁」が韓国の天才棋士を4勝1敗で破ったニュースは記憶に新しいところです。人工知能とビッグデータの技術を駆使し、10の360乗という無限大に近い手数が想定される囲碁というゲームにおいて、コンピュータがプロ棋士を破るまでに学習し、成

長したという事実は世界に衝撃を与えました。

本学では情報学の進歩に歩調を合わせて、システム開発、ゲーム・アプリケーション、ネットワーク・セキュリティなどの情報技術をテーマにしたコースから心理・教育、スポーツマネジメント、起業・商品開発、会計・金融、社会コミュニケーション、CG・Webデザイン、映像・音響、ちば地域構想、地球・自然環境などの応用分野をテーマにしたコースまで12コースによるカリキュラムとそれぞれのコースにあわせた特色ある研究室を設置しています。

これから、本学における学びがスタートします。大学の学びは、単に与えられた授業を受けて、試験に合格して卒業することではありません。学びの基本姿勢は、「自分が何を学びたいのか」という問いの中にあります。これが理解できれば、きっと大学生活は充実したものになることでしょう。大切な心構えは、他人から教えられるのを待つのではなく、自ら会得しようとするマインドになります。

ここでは、特に高校時代と異なる2つの点についてお話したいと思います。まず第一に情報学の基礎的知識を修得するため「授業科目を選ぶこと」、第二に専門分野の課題を解決するために「研究すること」です。

まずはじめに「授業科目を選ぶ」とは、自分の進みたい分野にあわせてカリキュラムを設計する事に他なりません。授業は、学年が進行していくにつれて次第に専門性に特化した科目に枝分かれしていきます。1・2年次では、情報学の土台となる基礎知識を学び、コースや研究室の研究テーマに関連する専門分野の特徴を理解します。充実した学生生活を送るためにも、できるだけ早い段階で「自分のやりたい事と進むべき分野」を具体的にイメージできるよう真剣に考えて準備する事が重要です。迷ったら積極的に担任の先生に相談してください。

次に「研究」です。皆さんは3年次より全員が研究室に所属し、コースを選択することになります。ここから本格的に研究が始まります。そのため、「それぞれの研究室がどのようなテーマを取り扱っているのか」、「各研究室の研究テーマへの取り組みはどのようなものか」について、しっかり理解してください。研究では、未来を視野に入れて、科学的な視点に立って真実を見極めることができる能力を養うことが大切です。どんな最先端の技術や知識も必ず時代の変化と共に衰退します。しかし、未来という座標で物事を考える姿勢が身に付けば、きっと将来にわたり進歩と歩調をあわせることができます。

研究活動を通じて得られる成果はどんなに小さな成果であっても、かつて世界の誰もが知り得なかった真実であり、極めて価値あるものです。これらの成果が蓄積されることによって、延いては現場や実社会の課題解決や新技術の確立として結実することになります。これが「研究すること」であり、「研究することの醍醐味」です。

フランスの哲学者であり、数学者でもあるルネ・デカルトはその著書「方法序説」において、「優れた理性を持つだけでは充分ではない、大切なのは、それをうまく活用することである」といっています。理性は、知性と言い替えても良いかもしれません。皆さんには学んだ知識を様々な課題へ応用することで、真の知性を育てて欲しいと考えています。研究活動に積極的に取り組み、現場や実社会の課題解決に向けて果敢に挑戦してください。

大学院総合情報学研究科では、情報社会に貢献できる高度職業人、研究者を養成することを目的としています。そこで、大学院に入学された皆さんは、情報に対する多面的なアプローチから研究に取り組み、高度な情報学と情報技術を修得すべく精進するとともに自ら定めた研究テーマを深く探求することに努力し、大いなる成果をあげられることを期待しています。

これから始まる学部であれば4年間、大学院であれば2年間または3年間という皆さんに与えられている「時間」は、個人の意思には関係なく公平・平等に刻々と動いていきます。「時間」は、止めることや戻すことができないため、場合によっては残酷ですらあります。この「大学時代」の限られた貴重な時間を有効に使い、皆さん一人ひとりが自分の将来を見据えて悔いを残すことがないように、失敗を恐れず、志を高く持って粘り強く学び続けて、大きく成長してくれることを期待しています。教職員一同で皆さんの学生生活を応援することをお約束します。

本日の入学式にあたり、新たなスタート地点に立つ皆さんが自らの夢への種をまき、豊かな実りある学生生活を送られることを祈念し、式辞といたします。